『中国地区英語教育学会研究紀要』No.23 (1994.5.15)

# 英語コミュニケーション教育に関する基礎研究（1）[1)]

## —現場の声（語彙指導）—

鈴峯女子短期大学　田　邉　祐　司
比治山女子短期大学　馬　本　　勉

### 1．はじめに

コミュニケーション能力を重視した指導を、授業の中でどう具現化していくかは、我々英語教師が今、最も考えなければならない問題である。様々な取り組みが各所で論じられてはいるが、いざ自分で取り組もうとすると、「指導上の問題点は何か」「他の教師が何を行っているか」といった実態が把握できていないため、具体的にどう手をつけてよいか困惑することが多い。種々の研究会や専門誌を通じての情報収集が可能とは言え、ともすれば時間的な制約などから、自らが習ったときと同じ方法に終始している、といった授業も多いのではないだろうか。

こうした状況を打破するために、日々変化する現場の動態を、教師や研究者が常につかんでおく必要がある。しかもそれは断片的な情報ではなく、継続的かつ長期的な情報でなければならない。さらに、それらを現場へ還元していくシステムを構築することが急務と思われる。

この目的を達成するため、我々は次の二つの活動に着手した。ひとつは「広島英語コミュニケーション教育研究会」[2)]の発足(平成４年８月)、もうひとつは、現場の教師に対するアンケート調査の開始(平成４年７月)である。

本「基礎研究」は、１)教育現場と研究者間のキャッチボール、２)オープンな情報提供、の２点を基本的な柱とし、今後長期にわたって継続的・発展的に進めていくものである。本論考は、こうした研究のシステムづくりのための、いわば「旗揚げ」として位置づけることができる。以下、パイロットスタディとして実施したアンケート調査の結果報告を行い、問題点の提起と考察を行う。

### 2．アンケート調査

平成４年７月、中国・四国・九州地区の、中学校・高等学校・短期大学・大学等の英語教師を対象に、音声と語彙の指導に関するアンケート調査を実施した(資料１)。２つの領域に限定した理由は、これらが、１)コミュニケーション能力を構成する要素の中でも、より「基礎的能力」とみなされている[3)]、２)指導が遅れていると言われる分野である[4)]、３)現場の教師から「指導の実態を知りたい」という要望の強かった領域である、４)筆者の中心的な研究分野である、などの点である。

アンケート調査用紙は合計505名に送付し、98名から回答があった(回収率19.4%)。内訳は、中学校37名、中・高等学校(附属学校など、両者が併設されている学校)7名、高等学校43名、短期大学・大学他11名である。

なお本稿では、語彙指導に関する調査結果のみを扱うこととする[5)]。

## 3．語彙指導の重要性と問題点

質問[1] 一般に、中学校、高等学校の授業で行われている「語彙指導」は、コミュニケーション能力を高めるために有効と思われますか。　[　はい　いいえ　]

質問[2] 上のようにお答えになった理由をご記入ください。

[集計結果]

| | 中学 | 中高 | 高校 | 短・大他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| はい | 33 | 4 | 34 | 5 | 76 |
| いいえ | 4 | 3 | 7 | 5 | 19 |
| どちらでもない | 0 | 0 | 2 | 1 | 3 |
| 合計 | 37 | 7 | 43 | 11 | 98 |

質問[1]は、コミュニケーション能力を高める上で、現在行われている語彙指導[6]が満足のいくものかどうかを問うものである。[1]の理由を問う質問[2]では、語彙指導がもし満足のいくものでないならば、どこに問題があるのかを探ろうとしている。

「はい」という回答のうち、49名(中学23，中高4，高校20，短・大他2)が「コミュニケーションにはどうしても語彙が必要」「語彙が豊かであれば、コミュニケーションの幅も広がる」等、コミュニケーションと語彙の関係が密接であることを理由にあげている。こうした回答は「現状に満足か」というよりも、「本来語彙指導は必要か」といった観点から述べられていると考えられるため、質問の意図と合致しない要素を含んでいる。ところが別の見方をすれば、コミュニケーション能力を高めるために語彙指導が重要であるという現場の声を、期せずして拾うことができたとも言える。

その他の「はい」の理由は資料２に列挙したとおりだが、積極的に「有効」とする声は少なく、むしろ不十分な点を指摘する声が多い。

一方「いいえ」の理由としては、現状の問題点を指摘するものがほとんどである。例えば、「語彙数の不足」や「日常語の不足」など教材の不備を挙げるものや、「認識レベルにとどまっている」「実践面で使えない」など運用を踏まえた指導の不備を挙げるものもあった。さらに「受験」に縛られている現状を訴える声が多いことも見逃せない。

以上のように、質問[1]・[2]では語彙指導の必要性が明示されたと同時に、問題点の多いことを再認識させられたわけである(資料２)。次節では、質問[2]で挙がった問題点を、質問[3]・[4]の結果をもとにさらに浮き彫りにしていきたい。

## 4．語彙指導の実際と教師の意識

質問[3] コミュニケーションのための「語彙指導」として、先生が日頃から行っていらっしゃる一番の工夫をお教えください。

質問[4] コミュニケーション能力を高めるための「語彙指導」は、今後どういったところに力点をおくべきだとお考えですか。

質問[3]は教師の現在の工夫を問うもので、実際に力を入れて指導に当たっていることを探るものである。質問[4]は今後どうあるべきか、といった教師の意識を問うものである。

今回の分析では「どういった指導の過程を経てコミュニケーションに近づけていくか」という観点から、教師の工夫や意識を、語彙指導の４段階(馬本 1992)[7]に沿って分析する方法をとった。具体的には、回答の記述に見られる工夫や考え方が、選択・提示・練習・発信の、どの段階

に関連しているかを分類するという単純な方法である。下に示した語群は、実際のアンケートの回答から抽出した、分類基準として用いたキーワードの例である。

語彙指導の４段階と分類のキーワード

「選択」：身近な語、生活言語、基本動詞、よく使われる語、意見や感情が表せる語、等
「提示」：コンテクスト、派生語、語源、例文、実物、単語本来の意味、等
「練習」：繰り返し、暗写、暗唱、テスト、音読、dictation、口慣らし、等
「発信」：会話、自己表現、スピーチ、英作文、使う、意見を述べる、創らせる、等

下の表の数値は、各々の段階に関連した工夫や意識を記入した人数を示したものである。ただし、ひとりの教師が複数の段階に関連した記述をしている場合は、段階別にカウントしている。例えば、「教科書の中の語彙を正しい発音で自分の言葉として暗記させ、それをスピーチや作文に使わせるようにしている」という回答の場合、「暗記」は「練習」、「スピーチ」「作文」は「発信」に分類し、その両方に１ずつ数値を加えてある。そのため集計表の合計人数は、回答の集計数を上回ることになる。

| 質問[3] | 選択 | 提示 | 練習 | 発信 |
|---|---|---|---|---|
| 中学校 | 1 | 23 | 12 | 8 |
| 中・高等学校 | 1 | 3 | 2 | 3 |
| 高等学校 | 1 | 23 | 15 | 7 |
| 短大・大学他 | 0 | 6 | 4 | 2 |
| 計 | 3 | 55 | 33 | 20 |

| 質問[4] | 選択 | 提示 | 練習 | 発信 |
|---|---|---|---|---|
| 中学校 | 14 | 13 | 7 | 11 |
| 中・高等学校 | 2 | 2 | 1 | 5 |
| 高等学校 | 18 | 16 | 9 | 11 |
| 短大・大学他 | 5 | 3 | 2 | 5 |
| 計 | 39 | 35 | 19 | 32 |

上の表を見ると、現在の工夫を問う質問[3]では、「提示」に工夫をしている教師が多いことがわかる。また、「練習」「発信」と段階を追って少ない数値となっている。

「選択」についての工夫は、検定教科書の使用という関係上、数値が小さいのも納得できるところではある。ところが、コミュニカティヴ・アプローチが専門誌や学会で盛んに唱えられていることを考えれば、「発信」に関する記述があまりにも少ないという印象を受ける。

ひとつには「発信」段階の具体的な指導方法が確立していない点が指摘できるであろう。特に最近、海外では、コミュニケーション活動をふんだんに盛り込んだ語彙指導のテクニックを紹介する文献が多数見られる(Allen 1983, Morgan and Rinvolucri 1986, Gairns and Redman 1986, Taylor 1990,1992 など)が、国内の研究動向や出版状況を見ると、この点ではまだまだ不十分と言わざるを得ない。

また、「語彙指導」という言葉に「発信」の概念は含まれていない、と考えることもできる。現に「語彙指導とはいかに効果的に語彙を導入するかを問題にする」と指摘する教師もいるので

ある。

次に、今後どうあるべきかを問う質問[4]では、教材の「選択」に力点を置くべきだとする声が最も多い。この結果は質問[2]の項でも触れたように、現在の教材が問題点を抱えているという事実を裏づけているとも言える。また、[3]の結果と比べて「提示」の数値が減り、「練習」と「発信」の数値が逆転しているのも興味深い。従来の「提示・練習」中心から「発信」中心へ、といった意識の移行が見えるとは言えないだろうか。

## 5．考察とまとめ

上のデータから読み取れる今後の検討課題は、「教材の改善」と「発信段階の指導上の工夫」というように整理できる。現実問題として、教材に関してはすぐに現場が動ける性質のものではないが、指導上の工夫については、まさに今この時から見直しにかかれる問題である。

既に述べたように、コミュニケーション能力に語彙力が関わっているということは、多くの教師の認識しているところである。にもかかわらず、授業で発信段階の語彙指導が十分工夫されていないとすれば、語彙指導がコミュニケーション能力を高める機能を果たしているかどうか疑問である。青木(1992: 115)は、

> 一般的に言って、いかに簡単な発話であろうとも、何らかの言語機能をもっているのであるから、"for communication" を視野に入れないような学習からは、言語運用能力は育たないという認識が要る。そうでなければ、言語は暗記の対象にしかならない。

と述べ、運用能力を高めるには、意思伝達を図ろうとする要素を含んだ学習活動が不可欠であることを示唆している。従って、授業における語彙指導は、何らかの意思を伝える活動を通して、語彙の使用能力を高める方法を工夫することが重要となるのである。語彙の提示や練習でとどまるのではなく、むしろ語彙の使用に重点を移行することこそが必要だと言えよう[8]。そうしてはじめて、コミュニケーションを目指した語彙指導と呼べるのではないだろうか。

いずれにせよ、今回の調査を通じて、「発信中心へ」といった意識の変化が見受けられたことは、英語教育の現場に変化が訪れることを予感させるものであった。我々の「基礎研究」は、その変化に寄与しようとするものなのである。

## 6．おわりに

今回の調査は先にも述べたように、回収数はわずか98(19.4%)であった。この数字は、現場の実態をつかむのが極めて難しいことを如実に物語っている。だからこそ、自由記述方式の煩雑な調査にご協力頂いた現場の先生方には頭の下がる思いである。

調査結果はあくまでもパイロットスタディの域を出ない。従って、これまで考察した事柄を、より広範囲な実態調査を通じて検証していく必要がある。同時に、一方通行の調査に陥らないよう、教師の生の声にも耳を傾ける必要性を痛感する。こうした情報収集を通じ、コミュニケーション教育のためのデータベースを構築するべく、現場とのキャッチボールを続けていきたいと考えている。

なお、「情報源」や「必要と思われる語彙」に関する質問[5]・[6]からも興味深いデータが得られたが、今回は紙面の都合で割愛する。稿を改めて報告する予定である。

## 註

1) 本論考を含め、田邉・馬本(1993)など一連の「英語コミュニケーション教育に関する基礎研究」は、(財)言語教育振興財団からの助成を受けたものである。

2) この研究会は、現場教育の問題点を膝を交えて語り合い、またアイディアを出し合う場として、若手の教師・研究者が中心となって発足した。これまでの各自の研究や実践の蓄積を、具体的に活用できる方策を模索している段階である。

3) 青木(1992)は海外の研究成果をもとに「伝達能力」の構成要素についてまとめているが、その中に、「熟達度が初期段階の学習者には、語彙、文法、発音のいわゆる文法能力が最も重要な役割をはたしている」(103)、「文法能力[語彙、文法、発音]は社会文化的脈絡に支配されない、より基礎的能力である」(104)といった記述がみられる。

4) 若林(1991)は、授業における不十分な状況を、次のような例を挙げて説明している。

私の今までの経験によれば（そして、それは事実なのだが）、たとえば発音の難しさを克服するために具体的な援助の手が差しのべられたことは皆無に近い。そこにあるのは、多くの場合「ただ真似をせよ」である。同じことは他の項目についても言える。文字指導も「ただ覚えよ」であるし、文法とか文法用語もそうであるし、単語もやはり「覚えよ」である。(371)

毎時間のように新しい単語がいくつも提示される。とても覚えきれるものではない。しかも、どうしたら単語が覚えられるかは、教室で教えられることがない。ただひたすら「覚えなさい」と命じられるのみである。(374)

5) 音声指導に関する調査結果は、田邊・馬本(1993)を参照されたい。

6) 語彙指導を授業内の独立した指導形態とみるか否かは、直接的・間接的語彙指導のあり方とも絡めて、議論の余地のあるところである。本調査の回答を見ても、語源や派生語の提示、反射的な繰り返しといった、語彙のみを意識的に取り上げて指導する直接的な方法から、読解指導の過程で触れる程度といった(どちらかと言えば)間接的な方法まで、様々なレベルの語彙指導の存在が確認できる。林(1988: 577)は両者の関連について検討を深めるべきだと述べているが、この問題に対しては、今後の調査を通じて何らかの答が出せると思われる。

7) 馬本(1992: 34)は、語彙の学習・指導は「選択・認識・トレーニング・コミュニケーション」の４段階が繰り返されると想定し、語彙指導はそのすべての段階に関与すべきだと述べている。本論考ではこの考え方に基づき、より指導的な立場を明確にするため、「認識・トレーニング・コミュニケーション」を、「提示・練習・発信」という言葉で置き換えている。

8) 語彙の指導を提示や練習段階でとどめるということは、ウィドウソン(1991)の言葉を借りれば「言語用法(usage)」に比重が置かれた状態だと言える。彼は、言語用法面からの練習は、コミュニケーションという目的のために「補足的役割」(24)は演じるが、それだけではほとんど役に立たないと述べ、むしろ「言語使用(use)を教えれば言語用法の習得も保証される」(24)という考えのもと、「言語使用」を主に外国語教育を組み立てていくことを主張している。

## 参考文献


Allen, Virginia French. (1983). *Techniques in Teaching Vocabulary.* New York: OUP.

Carter, Ronald, and Michael McCarthy. (1988). *Vocabulary and Language Teaching.* New York: Longman.

Gairns, Ruth, and Stuart Redman. (1986). *Working with Words.* Cambridge: CUP.

McCarthy, Michael. (1990). *Vocabulary.* Oxford: OUP.

Morgan, John, and Mario Rinvolucri. (1986). *Vocabulary.* Oxford: OUP.

Nation, I.S.P. (1990). *Teaching and Learning Vocabulary.* New York: Newbury House

Publishers.
Taylor, Linda.(1990). *Teaching and Learning Vocabulary.* New York: Prentice Hall.
---, (1992). *Vocabulary in Action.* Hemel Hempstead: Prentice Hall.
青木昭六(1992).「英語教育とコミュニカティブ・コンピテンス」阿部美哉編『国際文化学と英語教育』 玉川大学出版部, 95-116.
五十嵐二郎(1981).『英語授業過程の改善』 大修館.
ウィドウソン, H.G.(東後勝明・西出公之訳)(1991).『コミュニケーションのための言語教育』研究社.
馬本　勉(1992).「英語語彙の学習・指導に関する歴史的研究(1)―枠組みの設定」『比治山女子短期大学紀要』26: 29-39.
国宗芳彦・鬼無数之(1991).「英語の持つ働きを学ばせつつ表現力を養う指導の在り方―コミュニケーション活動を通して」 香川大学教育学部附属高松中学校『研究報告』1.10: 103-12.
田邉祐司(1991).「Teaching English Pronunciation in Japan: Current View ―現場教師へのアンケートから」『鈴峯女子短期大学人文社会科学研究集報』38: 91-107.
田邉祐司・馬本　勉(1992).「語の Recall をめぐって―語彙指導の観点から」中国四国教育学会『教育学研究紀要(第2部)』37: 166-71.
---, (1993).「英語コミュニケーション教育に関する基礎研究(2)―現場の声(音声指導)」中国四国教育学会『教育学研究紀要(第2部)』38: 8-13.
林　洋和(1988).「英語の語彙指導における問題点と考察」『広島農業短期大学研究報告』8.3: 571-81.
---, (1990).「予習における辞書の使用とその問題点―読み及び語彙指導とのかかわりで」第16回全国英語教育学会静岡研究大会発表資料.
若林俊輔(1991).「英語教育の基礎について」若林俊輔教授還暦記念論文集編集委員会『英語授業学の視点』 三省堂, 368-79.

**資料1　アンケートの質問項目**

[1] 一般に、中学校、高等学校で行われている「語彙指導」は、コミュニケーション能力を高めるために有効と思われますか。[　はい　　いいえ　]

[2] 上のようにお答えになった理由をご記入ください。

[3] コミュニケーションのための「語彙指導」として、先生が日頃から行っていらっしゃる一番の工夫をお教えください。

[4] コミュニケーション能力を高めるための「語彙指導」は、今後どういったところに力点をおくべきだとお考えですか。

[5] 語彙の指導を行う上で、先生が「指導」の参考にされている情報源を、よろしければご記入ください。

[6] コミュニケーション能力を高めるには、どういった種類の語彙が、どの程度必要だとお考えですか。

**資料2　調査回答**

質問[2]から[4]までの回答を、回答者の勤務校別に紹介する。左端の数値は、回答の到着順につけた通し番号である。

質問[2]

1) [1]で「はい」と答えた理由(「本来語彙指導は必要である」といった観点からの回答は省略)

中学校

019　教科書が文法中心から、次第に使う英語、communicative な編成になってきているので、まずまずだと思う。

047　中学校では基本的な単語が多いので。でも身の回りの物の名や、事柄など、もっと柔軟に学べたらとも思う。

050　中学校の場合、まだ基礎的内容の段階なので、これで十分とは言えないが、仕方のない面もある。もっともっと一般に使う語も取り入れたい。

063　これを「いいえ」と答えれば、明治以来の日本の英語教育を否定することになる。そんな勇気は私にはない。やはり「しっかりと単語を覚え」「正しい文法で話す」のが教師の仕事である、と我々は教師であるが故に認識しなければならない。英会話教室なら別だが。

066　最近は、よく使う語彙を多く指導する傾向にあるから（教科書そのものも、かわってきている）。

069　自分自身がその力不足に悩んでいる。

073　内容を高めていけば自然に必要になると思う。

078　以前に比べ、かなり日常会話に利用される語が学習されるようになってきたから。ただし、まだ充分ではない。

080　何もしないよりは少しは役だっていると思う。しかし 100個の単語を覚えても、使える（話す・書く）のはその半分以下かもしれない。

高等学校

011　日本語との違いなど、説明しないよりはよい。具体的な例や、状況の中で練習を積めないのは残念だが。

021　中学校で指導する語彙はあまりにも少なすぎて、表現するための文型はわかっていても「文」にならないから。高校では反復練習が少なすぎないだろうか。テープを１、２回では効果はあまりないだろう。

027　確かに受験英語中心の授業における単語力の養成が、そのままコミュニケーション能力につながってはいないということは認めるが、高度な会話においては高度な単語（抽象的な意味の語等）も必要なので、役立つと思う。

030　言語習得過程の中で語彙というのは、母国語であれば自然に増えていくが、何もやらなければ全く第２言語の場合は増えないと思う。

036　難しい派生語などをたくさん覚えるより、基本的な生活語彙をしっかり身につけさせてコミュニケーションの基礎づくりをする必要があると思う。

037　中・高をマスターすれば、コミュニケーションに差し支えないと思う。

044　（部分的「はい」）入試対策に走りすぎる。コミュニケーションになっていない。

058　語彙は必ず例文を含んで学習させ、折に触れ、語源にも言及している。日英語のもつ一語の幅の相違、共通性など、深くやればいくらでも生徒にも私たちにも新しい発見（!?）が得られる。

061　（やり方によっては「はい」）

064　特に障害はないので。

065　基本的な天気、その他の簡単な文章だけでは、多くの事を読ましたり、よりこみいった事柄も話しにくいと思われるし、またある語彙にもいろいろな意味もある場合もあるし、また重要度もあるので能率的に行うためにはそれが必要だと思う。

074　知らない語は、何回聞いてもわからないので、多読や英英辞書等を利用して語彙を増やす指導をすべきだと思う。

短期大学・大学他

076　口語英語では2000語あれば充分。

094　多少なりとも有効でなければしていない。

2) [1]で「いいえ」と答えた理由

中学校

008　もしも単語のみを繰り返し教え込むことを言うのなら、単語のみを知っていても、コミュニケーション能力はつかないと思う。

012　どうしても教科書中心、受験を意識した指導になりがち。

082　教科書に使われている語句を扱うという範囲から大きくは出られないという現状ではないかと思われるから。

093　語彙数が圧倒的に足りないし、身についている生徒も少ないから。

中・高等学校

006　テキストのニューワードを中心に指導している教師がわりと多いが、それではあまり意味がないと思う。

009　一般に、読み中心だから。

043　語彙は新出語に限られているのでコミュニケーションの関わりで用語を選んでいない。

高等学校

007　教材が片寄っている。

040　語彙指導は現状では受験のための指導でしかない。

046　全員に単語帳を持たせて週に1回テストをしたり、教科書に出てきた単語を書かせるテストをしているが、まとまって頭に入っていないように感じられるので。特に単語帳は単なる詰め込みで、運用につながりにくい。

070　日常生活、職場で必要となるであろう語はあまり教えられていない。

083　現在の語彙指導はコミュニケーション能力を高めるため、というような観点では行われていないと思う。

084　本校でも英単語帳（基本単語を示した物）等を全校生徒に配布し、定期的に英単語テストなるものを行っているが、教科書でも同じだとは思うが、語句の意味が一つか二つくらいしかのっていなくて、生徒がその意味を鵜呑みにして実践面で使えないのではないか、という疑問がある。

087　（どちらかと言えば「いいえ」）大学受験のための語彙指導になっている傾向が強いため。長文の中で、認識できる（見てその意味がわかる）程度にとどまっている。

短期大学・大学他

014　知識の段階（特に受験のための）でとどまっているような気がする。「使う」ための指導が足らないのではないか。

057　例えば、20年前の大学受験生と今日の受験生の語彙能力を比較すれば明らかである。（現在の大学１年生の平均的な語彙能力は、私の調査では、約2500語である。）

062　まだまだテキストのみの語彙では不足していると思われる。

095　「訳語」に頼りすぎる指導が行われていると思うから。生徒任せにして「指導」はあまり行われていないと思うから。

098　１つの単語について、１つの訳語をあてる傾向があり、必ずしも語の背景にある総括的な意味にまで踏み込んでいないのでは、と感じる。

3) [1]で「どちらでもない」と答えた理由

高等学校

017　有効なものもあるが、口語表現が少ない。

072　コミュニケーションの中に、読解も含めて考えるのであれば、現状でも有効と思う。しかし、コミュニケーションを「聞く、話す」を中心に考えるのであれば、生活用語、簡単な動詞の用法など、考えることはたくさんある。

短期大学・大学他

060　答難い、教材による。対話、会話などの各レッスンのイントロダクションなどは役立つ。

質問[3]

中学校

004　個々の単語を提示して日本語訳と結び付けるのではなく、context のある文の中で意味を考えさせるように（guess）している。例文を多く示す。

005　辞書指導と授業前の単語テスト。

008　単語は簡単に指導し、句や文章として覚えさせる。しかも situation をよくわからせて理解させる。

012　なし。教科書に出てくるものを徹底指導するだけで手一杯の状態。

013　中１で、名詞を、できれば絵と共に限りなく多く教えること。簡単な文の recognition から production への発展を限りなく多く。

015　新しい単語が出てくるたびに、「広告などで聞いたことがあるでしょう」という形で教えている。

016　「この場面ではこの単語を使っても意味が通じる」という単語を示す。

018　授業の中で、できるだけ単語に接し、単語を身近な物としてとらえるように指導している。

019　教科書の中だけでなく、場面を広げるようにしている。cheeseburger を習うときに、French fry なども教えたり。

020　ページごとに単語テスト実施。

028　フラッシュカードの利用（カードをフラッシュさせる、単語の綴の中で発音と符合しない

文字をかくして当てさせる）。

031　ある単語を教える場合、その反義語を考えさせたり、動詞のときには過去形や活用などを言わせるようにしている。

033　単語集を使わせる。派生語をまとめてやる。

038　スピーチを通して、自分が本当に言いたいことを話すことによって語彙が拡大していくと思う。

041　単語テストをするときに、教師は文を発音し、それを書きとったり、その中に使われる単語の意味を考えさせたりしている。

047　英作文のとき、習っていない単語も、辞書などを利用してどんどん使わせる。

048　２・３年生には、新単語を予習させ、ノートにまとめて来させる。ページごとに単語書取テストを実施する。１年生には文の書取テストをする。

050　教科書の内容から関係のある語彙へと指導内容をふくらませる。

051　新出単語の導入のとき、既習の語と関連づけたり（同義語、反意語）、日本語に入っているものがあればそのことに触れたりしている。

063　やはり基本文型の暗唱、暗写。

066　スピーチ活動。生徒の身近な話題なので、語彙も身近なもの、よく使うものが多い。未習のものは、予め、板書等させている。

067　新出単語を教えるとき、同意語をあげさせたり、あげてみて、板書する。

068　Dictation test など。

069　スピーチ活動の中で、未習の語を使う場合、補足する。

073　基礎的なものを覚えさせること。

075　必ず文を提示し、語の使い方を指導する。

077　身近な例文を覚えること、また自作文づくり。

078　テキストに出てきたものばかりでなく、これと関連性のある語を、同時に学習していく。（自己表現力をアップするのに有効な語）

080　コミュニケーションのためではないが、時々単語テストをする。

081　一語でも多く、つまり関連語をたくさんおぼえさせる。

082　音声面ではどんどん教科書を離れ、必要に応じて語句を導入（教科書の語句がすべてではないことを生徒もわからないといけないので）。なるべく日本語を介さないオーラルの導入をしている。

088　スピーチの原稿を作成させるとき、辞書を引かせている。既習のもの、自分で調べたものをそのたびに「表現ノート」に記録させ、データバンクとして活用させている。

089　発音 Repetition など。

090　身近な物についてはどんどん新しい語を使う、使わせる。

091　教科書の new words だけでなく、関連した語句を（同意語、反意語など）なるべく多く教える（無理しない程度に）。

092　Ｑを与えたときのＡに対するいろいろな答え方の指導。

中・高等学校

006　頻度の高い語とその基本例文を input させる形で指導するよう努めている。

009　その新出語についてできるだけ多くの例文を示す。

023　文または文章の内での語彙（syntax）を重視している。

043　教科書の introduction の会話に出てきた表現を繰り返させ、時たま２人組の生徒たちにその場で起立させ、会話をさせる。

054　不消化の語彙をつめこむことをしないで、使え、対話の相手にわかってもらえる語彙を増すために、まず教科書の中の語彙を正しい発音で自分の言葉として暗記させ、それをスピーチや作文に使わせるようにしている。

085　Guided writing (or speech) の中で、間接教材として、生徒のコミュニケーションに必要な語彙をどんどん与えていく。

高等学校

007　英字新聞や Reader's Digest を読むこと。

010　教科書になくても生活に密着しているものは、覚えるように指導している。

011　辞書を引くこと、違いの例を示すこと。

021　接頭語、接尾語、語幹の意味を理解させ、単語本来の意味を把握させる。

022　各レッスン毎に words や phrases のテスト。

024　学校独自の語彙検定テスト、日頃の単語テスト等。

025　単語テスト、英々辞典の活用。

026　できる限り語源を教え、派生語を教えている。

029　正確な発音、アクセントとともに身につけさせる。

030　派生語の指導。

032　よく使われる表現を、日常英会話練習にとり入れ、繰り返す。

035　生徒が例文の中で覚えていくよう心掛けている。ある状況の中で、その語を用いて表現する練習。

036　一番最初の授業であれば self-introduction に必要と思われる語彙の一覧を提示して self-introduction をさせている。

037　本校の場合、中１程度の語彙も身についていない生徒がほとんど。従って中１からやっている。

039　単語集を覚えること。教科書の物語文の暗唱指導等。

042　やさしい語を使っていくらでも表現できることを強調。辞書の活用（言葉に親しませる）。

044　Free composition。

045　できるだけ系統的に指導している。

046　できるだけ一文の中で覚えさせる。

049　Lesson の初めにその課に出る単語とその派生語を前もって配布して予習と復習がしやすいようにしておく。

053　Reader で、新出重要単語の dictation。Reader にでてくる新出、既出の重要単語、熟語をプリントし、とにかく覚えろと言っているが、あとは本人まかせ。

055　声を大きくして、自信を持って発音できるよう、余り細かい注意はしない。その前に教師が手本を示し、十分口ならしをさせている。

056　最近テレビのコマーシャル等 mass media で英語の単語が使われることがとても多いので、気づいたものを覚えて置いて、雑談の中で、「あの CM の中にでてくる単語は、こういう意味なんですよ」と教えてやるとよく聞いてくれる。

058　最近は native が選んだ「決まり文句１３０」「Using Idioms」など、実におもしろい教材が出版され、新出の語句に関連させ、使える表現をクラス内で紹介するようにしている。

059　大学入試への対応としての指導に終始している。

061　特にコミュニケーションを意識していない。

064　単語テストをよく行い、語彙を少しでも多く増やし、確実なものにする。

065　発音できにくい語彙を発音できるまで発音させたり、覚えておかせたほうがいいと思われる熟語など赤線を引かせて覚えさせるようにしている。又テキストの重要構文、文法事項等も理解させ覚えさせるようにしている。

070　自分自身について述べる（自己紹介など）ことぐらいはできるように。

071　現在使っている英作基本文例６００を利用して、繰り返し、読み書かせて、語彙を増やしている。

072　接頭語、接尾語、語源、反意語、類語、派生語などにふれること。

074　予習プリントに発音、アクセント等気をつけるべき単語をあげて、整理させるようにしている。

083　派生語や日本語的に使われているものなどの例をあげて生徒に説明している。

084　なるべく、その語句が使われる状況や場面などの例を多く示してやりたい（日常会話等で）。

086　基本的には新出・既出単語の repetition によって、記憶を引き出すというよりは、反射的に単語が出てくる、というレベルにまでもっていけば、比較的表現しやすいようです。但し、スピードとテンポを徐々に、かなり上げていかなければなりません。

087　ＡＥＴに、教えようとする words, phrases を実際の生きた場面で使わせ、「聞く」「読む」「話す」「書く」の活動を通して習得させようと心がけるが、ＴＴの機会が少なく不十分である。

096　自己表現させるときに、語彙リストなどを配る。繰り返し提示することによって定着をはかる。

短期大学・大学他

001　Collocation。

002　語源の説明、リズム読み。

014　Useful expression を自己表現にとり入れた会話練習。

057　できるだけ英語をたくさん読み、英語のリズムを体得する（読み、書くことの重要性を軽視すべきではない）。

060　２年生後半から３年生については、Asahi Evening News の記事の一部等をコピーして読ませたり、大意を言わせる。

062　常に和英辞典を携帯させている。

076　毎時間、単語テスト（但し、今年は事情があって、毎時間は実施しないで、調査中です）単語テストは、１回10問。

094　留学等、自分の体験をからめて提示する（どういうふうに習得し、どういうふうに、またどういった場面で使ったか等）。

095　「君達が覚えている単語の意味（訳語）をもう一度考え直してみよう」ということで授業を始める。プリント（テキストの主な単語の定義・例文）を毎時間配布。

097　特にない。英米文学を教えているので、文学作品講読のプロセスの中から覚えるように指導している。

098　ビジネス英語、時事英語を担当しているが、学生にとって、身近に感じられるような日常的なレベルの会話と結びつけて指導するようにしている。

質問[4]

中学校

004 Context をともなわない word だけの指導には限界があるので、今からはcontextualizationが重要。そのためには、教科書は役に立たないことが多い。

008 単語は簡単に指導し、句や文章として覚えさせる。しかも situation をよくわからせて理解させる。その単語の使い方も一緒に教える。中学生の時から単語の意味はできるだけ英語で理解させること、フラッシュカードの裏にはやさしい英語で意味が書いてあるようにすること、など。

012 実際に使える語彙を増やしていくこと。

013 日本語→←英語の転換だけでなく、正しい使用場面を限りなく発展させること。

019 書けなくてもいいから、聞けて、言えるだけの語彙をふやさなくてはならない。

020 会話の際に（実生活の場で）よく使われる語をリストアップして、指導すること。

028 （中学生の段階で）生活に身近な（最低会話で必要な）単語に精選し、難しい（あまり必要でない）単語は省く。

031 一つの単語から関連ある語をできるだけ多く考えさせたり教えたりして語彙を増す。

033 概念的な難しい語彙ではなく、日常よく使われる語であるが、我々がよく知らないものをできるだけ多く指導すべき。

038 語彙を制限しないで使いたい語彙はどんどん使わせるべきだと思う。

041 単語個々の意味をとらえさせるのではなく、フレーズ、文として内容をとらえさせるべきである。

047 身近なものの名前。また、自分の意見や感情が表せるような言い方と語彙の指導。

048 単語一つ一つを取り出して覚えさせるより、文の中での使われ方を全体として覚えさせたい。あきのこさせない繰り返しの指導法を考えなければならない。

050 現実的な設定のもとでの会話でよく使われる語彙を積極的に取り入れる。

051 「暗記」ではなく、授業のなかで実際「使う」ことを通して身につけていければ理想的である。

063 やはり、生徒の興味をひくような語、イディオムをふんだんに会話のなかに入れ、それを定着さすために、しっかりと書かす。つまり暗写に力点をおくべきだと思う。

066 身近な語句（主に名詞）を多く取り入れる。have, get 等への多様性をもっと指導する。知らない単語でも説明できたり、聞き返せるような、会話の定型を習得させる。

067 教科書でも、表現の多様化を載せるべき。まとめの部分があると教え易い。

068 書くこと。

069 自分のまわりの出来事等に常に関心をもつようにさせる。

073 Reading もコミュニケーションと思いますが、会話だけに限定すれば、やさしい単語の表現を数多く教えることではないか。

075 他の語との結びつきと関連について。

077 日常生活でよく使われるものを中心とした、使い方の指導。

078 あるテーマについて、自分の意見が述べれるような指導ができればと思う。日常語のみでなく。（つまり、そういうレベルの会話に必要な語）

080 教科書でなく、雑誌・新聞・ペーパーバック・ビデオなど、学習者が自ら求める情報をつかむための材料を自分でみつけてくるといいと思う。それで学んだ語彙は消えないのでは。

これが現実の学校での授業で無理であるなら、やはりつめこみ方式しか思い浮かばない。

081　中学校で1500語の教科書必要。

082　日本語との一対一対応をしていないことを分からせるため、なるべく実物や具体で英語のまま導入する。

089　聞いて分かる、書ける（使える）、発音できる、意味がわかる。

090　生徒の興味があるものに関する語彙を授業で使うようにする。

091　日々の授業でなるべく多くの教材を与える。

092　日々の授業の中で増やしていく。

093　詳しい意味を知るとか、辞書を引くとかという前に、生徒の興味を持ちそうな単語からどんどん覚えさせていく。

中・高等学校

006　生活言語をもっともっと導入していくべきだと思う。

009　多くの「例文」を頭に入れ、「いろんな場面の例文」を創らせる。

023　自己表現を的確にする語彙、相手の表現を確実に把握するための語彙力を養う。

043　言葉を、ヘレンケラーが water の意味を初めて知った時の感動を生徒に呼び起こすことではないか。生きた言葉を実感させるため、英語劇を授業を取り入れたものが望まれる。

054　語彙をふやすためには文章の中、まとまった話し言葉の中で、単語・熟語を教えなくてはならない。入試勉強の「豆単方式」はそのあとでやらせるべき。

079　同じ内容をできるだけ簡単な語を使った熟語表現で表す力をつけさせる。

085　Guided writing (or speech) の中で、間接教材として、生徒のコミュニケーションに必要な語彙をどんどん与えていく。

高等学校

003　生活レベル、及び、時事問題に関するものを多く取り入れていけばよいと思う。

007　英検などを利用し、イデイオム指導をする。

010　毎日の生活に関係した生活用語をしっかり使えるように。

011　多くの状況のなかで言葉を使う場面をふやすこと。

017　日常生活によく使われる表現もたくさん取り入れる。

021　「音声を伴う反復反復、実践実践あるのみ」ではないだろうか。つけ加えれば、話題に関する知識（情報）をできるだけ多く持っていることだと思われる。

022　単に、greeting に使われる語彙だけを繰り返すだけでは役に立たない。思考を述べる表現を覚えさせる必要あり。

024　発話、発信のできる、いわゆる使える語彙を身につけさせる。

025　地道な学習。Short story のなかで語彙能力をつけさせる。

026　今までの school English を少しはそれても current English を少し教えるべきか。

027　明確な回答にならないが、やはり会話（日常生活といってもいろいろな会話が考えられるが）のなかで多く使用させる語や表現の指導が必要と思われる。

029　日常生活のなかの語彙を多く入れる。

030　できれば同じ語源をもつ単語を、それぞれの文のなかでどのように変化していくのか、それが、まとめられたものがあればよいのだが。

032　「語彙指導」に、コミュニケーション能力を高めるためのものと、そうでないものがある

とは思われないので、特に力点はない。

034　語彙指導ではなくて、表現指導では？

035　必要（使用度が頻繁、あるいはやさしくて便利）な動詞を中心に覚えていく。動詞が大切と思っている。

036　単語を situation から切り離してがむしゃらに覚えさせるのではなく、situation のなかで提示し拡大してやることが大切だと思う。また一時期シャワーを浴びせかけることも必要なのでは。

037　文法が重要と思う。文法ができていないと、応用力がないので、コミュニケーションがせばめられる。

039　一つのセンテンスのなかで語彙（派生語等も）を修得させる。

040　受験英語の語彙力でなく、日常会話でよく使われる語彙を会話表現と一緒に学ぶことに力点を置くべき。

042　運用能力をつけるための基本的動詞（例：take, give, make など）を何回も辞書で引いて確認すること、暗唱させることなど。

044　場面設定して、語彙を数語提示して、free にスピーチ。

045　もっと整理して指導すべきだと思う。

046　場面ごとにぴったりくる言葉を集めたような本などがあれば、それに基づいて活用できる語彙がふえるだろう。

052　日常会話程度の英語をできるだけ多く、くり返し教えていく。

053　これだけは覚えなさいという基準・目標を与えることかと思う。

055　あまりにも語彙が少ないから、もっと語彙をふやす。語源・語幹・派生語・言い替えた表現など、いくらでも語彙はふやせる。組織的に系統立てて、語彙指導をする。そして、英語の新聞が読めるのに必要な語彙まで高校で教えるべきだ。

056　もっと身の回りの物を英語で何というかを知ることができる機会を持つべきと思う。教科書（高校）にでてくる単語だけでは、日常のコミュニケーションがしにくいと思う。

058　現在の Reader のような、ただ意味を調べ、訳すといった家庭学習のあり方でなく、新出語彙を使った作文、及び短い passage をどんどん読みこなせるようなテキストを全面的に作り直すべきだと思います。

059　中学校段階での身近な生活語彙の習得、高校における英作文指導。

064　日常会話でよく使う語を増やす。基本動詞の指導を行う。

065　私は現在ではテキストに出てきた単語・熟語などは発音できるようになり、覚えさせるようにしているが、コミュニケーションでは十分使用できるようになる必要のある語彙、分かるだけでよい語などの区別をするのがより効果的と思う。

070　自分自身について述べる。討論あるいは意見を発表するときの方法、語彙を指導していけば良い。

071　リスニングやスピーキングで応用できるように指導する必要がある。

072　Listening, speaking の場合、生活用語にふれる必要がありそうだ。

074　聞き取りや話すときに、困難と思われる語彙について、もう少していねいに指導してやる。弱音・強意、consonant cluster や reduction 等にも気をつける。

083　なるべくたくさん読ませること。

084　語彙のみ離して学習するのではなく、会話や文章の中でどのような使われ方をしているのか、指導していくのが大切になっていくのではないかと思う。

086　一つ一つの言葉を単なる記号として断片的に覚えるのではなく、文章や文脈の中でその言葉を使うことによって定着させる方法（T＆T、P＆Pの role play など）などが活用できると思う。

087　従来の「読む・書く」から「聞く」「話す」「読む」「書く」へと移行させる必要があると思う。

096　生徒にとって必要な語彙の選定をすること。

短期大学・大学他

001　決まり文句、慣用的表現の指導の中での語彙指導。及び collocation。

002　音声とのマッチングとスピード（リコールの）重視。

014　身近な物事を楽に発話できるだけの語彙量、幅広く使える語彙を幅広く使えるようにする。

057　「語彙指導」にあまりこだわることはない。コミュニケーションに限定すれば、現在の能力で充分である。むしろ、イディオムや慣用表現等も含めて、ネイティブスピーカーと実際に話す機会を増やすことが大切だ。

060　日常生活に密接な関係のあるものを教材にしていく。

062　何でも英語で言わせてみる。

076　大学生に限って言えば、100回音読、100回テープを聞くこと。

094　まちがいを恐れず、どんどん使用する。

095　語の辞書的意味に加え、文法的、連語的意味の指導、および定義能力の養成。直接的語彙指導の強化。

097　中学の段階で教科書に使う語彙をもっと増やしてよいと思う。